目次

2024 年度　学部シラバス関連資料

シラバスの利用・単位修得について・・・・・・・・・・・・・・・・1
共通項目（Ⅰ教養科目　Ⅱ年表について）・・・・・・・・・・・・2
共通項目（ドイツ語）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
共通項目（イタリア語）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
共通項目（フランス語）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
ジャンル横断歴史年表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

シラバスの利用について

令和６年度、本学が開講する授業科目のシラバス（授業計画）です。履修に際しての参考とし、このシラバスを大いに活用してください。
シラバスには、授業の目標や内容、自学自習の指示等、修学上の指針となる内容を示してあります。
本学では、**授業の履修登録をしていない授業科目についての履修は認められません。**また、**一旦登録した授業科目は取り消すことができません**ので、履修する授業科目を慎重に決めてください。

シラバスの記載項目は次のとおりです。

1）科目ナンバー、授業科目名、開講期、開講年次、組、曜日・時限、一週間の授業時間・時限数、単位数、担当教員名、授業形態、学位授与の方針との関連
2）授業の到達目標及びテーマ、授業の概要、予習・復習等の内容・時間、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法、学生に対する評価（到達目標に基づいての評価）、テキスト、参考書・参考資料等、授業内容

授業実施曜日、時限、組等は、「令和６年度　授業時間割表」を参照してください。なお、集中授業については、別に定める期間に実施となりますので、「集中授業時間割・組分表」を参照してください。

単位修得について

1）所属する学科・専攻・専修コース等別に定められている教育課程に基づき、シラバスを参考にして履修する授業科目を確定し、所定の期日までに履修登録をしなければなりません。
履修登録をした授業科目は、実施された授業回数の３分の２以上（集中授業は５分の４以上）に出席し、所定の試験に合格した場合、単位修得が認められます。
したがって、**所定の試験に合格した場合であっても、授業回数の３分の２以上（集中授業は５分の４以上）の出席に満たなかった場合、単位修得は認められません。**

2）　成績評価基準

クラス授業科目点数区分	実技科目点数区	評価の表示方法	基準	合否
90～100点	80～100点	S	到達目標を十分に達成し、優秀である	合格
75～ 90点未満	65～ 80点未満	A	到達目標を十分に達成している	
60～ 75点未満	50～ 65点未満	B	到達目標を達成している	
50～ 60点未満	40～ 50点未満	C	到達目標をほぼ達成している	
0～ 50点未満	0～ 40点未満	D	到達目標を達成していない	不合格

3）　成績配分比

それぞれの評価についての配分比は概ね以下のとおりとし、この成績分布の割合は各科目共通の目安といたします。

評価	成績の配分比	備考
S	20%程度	ＳＡ合わせて50%程度
A	30%程度	
B	40%程度	
C	任意	割合は定めない
D	任意	割合は定めない

注１.オーディションによって選抜された科目や、前年度の成績上位者が履修する科目については上記の成績分布割合を用いません。

注２.習熟度別クラスでは、クラスに応じて成績割合は変化しますが、同一科目内の全体の成績分布割合は概ね上記のとおりとします。

共通項目

Ⅰ　教養科目

本学の教育方針（「音楽芸術の研鑽」、「人間形成」）は専門教育と教養教育が互いに相補うものであることを示しています。この方針の下、教養科目では、人間の歴史や文化、社会や経済の仕組み、自然科学の考え方などを学ぶことによって幅広い教養を身に付け、多面的に深く物事を考え認識する能力および感性を養うことを目指します。具体的に言えば教養科目は、演奏家、作曲家、教員、音楽研究者、アートマネジメント等を志す学生諸君にとって、その学修の基礎となり、土壌ともなる科目と言えましょう。グループＡ・Ｂ・Ｃをバランスよく履修することが望まれます。

グループＡ

人文科学系、社会科学系

哲学、美学、日本演劇文化論、文化史Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパの歴史、ヨーロッパの文学、ヨーロッパの美術史Ⅰ・Ⅱ、日本国憲法、経済学

■授業の目標

グループＡの科目では、歴史や思想、芸術の基盤、社会や政治、経済の基本的な仕組みを学ぶことを通して優れた思考力、認識力を養成すると同時に、豊かな感性と創造力を養うことを目指します。

グループＢ

自然科学系、保健体育系

音と響きの科学、自然科学概論、スポーツ教養演習、スポーツ

■授業の目標

グループＢの科目では、音楽に関連する科学的知識、自然・生命・身体に関する基礎的な知識並びに、それらの知の体系を学ぶことを目指します。

グループＣ

キャリアデザイン関連

キャリアデザイン（導入編･展開編、必修科目）､日本語表現法､生活と法、会計の基礎、コンピュータ・リテラシー

■授業の目標

卒業後、どのような進路を目指すのか、そのためにはどのような知識や技術を身につけたらよいのかを早くから意識することが望まれます。グループＣの科目では社会的・職業的自立に向けて必要となる能力・知識・技能の基本を養うことを目指します。

Ⅱ　年表について

シラバスに付属する「ジャンル別横断年表」は皆さんが学ぶさまざまな分野の出来事を有機的に関連づける目的で作成されました。西洋音楽史のある年代に、他の分野ではどのような出来事が起こっていたかを調べてみると、楽曲制作等の背景が徐々に浮き出してくるのが分かるでしょう。

■凡例：

〇本年表は、「西洋史」「西洋音楽史」「西洋美術史」「西洋文学・思想史」「日本文学・芸能史」の各分野における重要な出来事について、1700 年から 1949 年までを 10 年ごとに年代順に列挙しています。

〇本年表中では以下の通りに記載します。

・事項：西暦（複数年の場合はハイフン [-] でつなぐ）個人名（国名）、事項
1792-1804　フランス、第 1 共和制

・作品：西暦（複数年の場合はハイフン [-] でつなぐ）作者名（国名）《作品名》あるいは『書籍名』
1874-79 スメタナ（チェコ）連作交響詩《我が祖国》（全 6 曲）

〇年表中に個人の没年を表記する際には、個人名の末尾に生年を併記します。
1827　ベートーヴェン（独）没 (1770-)

■参考文献

西洋史：成瀬他監修、山川世界史総合図録、山川出版社、2012 年／亀井他編、標準世界史年表、吉川弘文館、2008 年
西洋音楽史：ニューグローヴ世界音楽大事典、講談社
西洋美術史：世界美術辞典、新潮社、1985 年／熊倉他著、西洋建築様式史（増補新装版）、美術出版社、2010 年
西洋文学・思想史：世界文学事典、集英社、2002 年／世界文学辞典（増補改訂版）、新潮社、1990 年
日本文学・芸能史：日本文化総合年表、岩波書店、1990 年／演劇百科大事典、平凡社、1962 年／日本近代文学年表、小学館、1993 年

共通項目

ドイツ語は、ドイツ、オーストリア、スイスおよびその近隣諸国の一部など、いわゆるドイツ語文化圏を中心に使われている言語で、バッハ、ベートーヴェン、モーツァルト、シューベルト、シューマン、ワーグナーをはじめ多くの偉大な音楽家たちの母語であり、ドイツリートの歌詞でもある。したがって、ドイツ音楽を深く理解するためにはドイツ語の学習は欠かせない。

ドイツ語は、１年次より４年次まで開講されており、授業時には、ドイツ語文化圏の歴史や音楽を始めとする文化的背景等についても随時紹介してゆく。

なお、この科目の単位修得に必要な学修時間は、教室内の授業時間と教室外の自主学習時間の合計である。従って、授業はこれを前提に行われるので、日々の予習・復習の励行が不可欠である。

基礎ドイツ語Ⅰ

開講年次	組
１年次	＊＊＊

■授業の目標

全クラス統一教材を使用し、ドイツ語の基礎文法を中心に学修する。

基礎ドイツ語Ⅱ

開講年次	組
１年次	＊＊＊

■授業の目標

基礎ドイツ語Ⅰ修得を基にして、さらにドイツ語基礎文法の半分程度を学修する。

基礎ドイツ語Ⅲ

開講年次	組
２年次	＊＊＊

■授業の目標

基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱに続いてドイツ語の基礎固めをする。文法知識の拡充とともに、語彙力、表現力を養い、「聞く･読む･話す･書く」といったバランスのとれたコミュニケーション能力の養成を目指す。

基礎ドイツ語Ⅳ

開講年次	組
２年次	＊＊＊

■授業の目標

基礎ドイツ語Ⅲに続き、さらに語彙力、表現力を高め、「聞く・読む・話す・書く」のバランスのとれたより高度なコミュニケーション能力の向上を目指す。

イタリアの詩聖といわれるダンテを始め、ボッカッチョ、ペトラルカと続く詩の伝統にはぐくまれたイタリア語は、その響きの美しさから音楽的といわれ、数々の優れた詩や音楽を生んできました。初期オペラの大作曲家モンテヴェルディからバロック時代のスカルラッティ、ペルゴレージ、ヴィヴァルディ、さらに古典派からロマン派へロッシーニ、ベッリーニ、ドニゼッティ、ヴェルディ、プッチーニなどのオペラにそれが見られます。したがって、イタリア・オペラや歌曲の理解にはイタリア語の学習がきわめて重要です。

イタリア語科目は、1年次から4年次まで開講されており、正確な発音、基本的な言葉の仕組み、文化的な背景を学び、さらに、簡単なコミュニケーションや長文の読解まで幅広い学習を目的としています。

なお、外国語の単位は半期1単位ですが、これには教室内の授業時間と教室外の相当する自習時間を含んでいます。したがって、授業に出席する際にはとりわけ復習が欠かせません。

基礎イタリア語Ⅰ・Ⅱ	
開講年次	組
1年次	＊＊＊

■授業の目標

すでに音楽用語でイタリア語に触れているでしょうが、イタリア語のリズムを身につけるため、正確な読み方と発音を徹底します。さらに、基礎的な文法の習得にも重点をおきます。イタリア語の基本的な仕組みを理解することで、短い文章も理解でき、また初歩的なコミュニケーションも可能となります。

基礎イタリア語Ⅲ・Ⅳ	
開講年次	組
2年次	＊＊＊

■授業の目標

1年次に続いて初級イタリア語の後半を学び、基礎的な事項を身につけます。すでにイタリア語の発音や、イントネーションに大分慣れたと思いますから、さらに語彙を増やし、表現力を養って、「読む、聴く、話す、書く」の基本的な能力をレベルアップします。

■授業科目と履修

「基礎フランス語」にはⅠ～Ⅳのナンバーが付されています。基礎フランス語Ⅰ・Ⅱは、初めてフランス語を学ぼうとする１年次の受講者のための科目であることを示しています。Ⅲ・Ⅳは２年次のための科目です。Ⅰを飛び越えてⅡを、Ⅱを履修せずにⅢを履修することはできません。Ⅳを履修するためにはⅢの履修が不可欠です。

フランス語科目の単位取得を伴う履修は、全学科、全コースにおいて可能です。１年次で選択しなかった場合でも、３年次になってから基礎フランス語Ⅰ・Ⅱを履修できます。詳しくはカリキュラム表で確認してください。なお、フランス語の単位を取得するためには、教室における授業時間と同等の時間を自学自習に充てて授業の準備（予習）と復習を実行することが必要です。

「基礎フランス語（Ⅰ～Ⅳ）」の授業には、大学院生も聴講生として参加できます。フランス語に関しても、学部在学中から長期的な到達目標を設定し、戦略を立てて学習プログラムを能動的に実行することが大切です。

基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ	
開講年次	組
１年次	＊＊＊

■授業の目標

厳選された文法項目とそれを説明する簡潔な記述と明快な例文からなる初級文法の教科書を使って、２年目以降の学習継続に必要なフランス語の「基礎」をしっかり学びます。例文と小さな読み物が吹き込まれている音源と映像を利用して柔らかな抑揚と明快な発音を身につけます。１年目の目標は、発音とつづり字に関するルールを理解し、短い例文を適正な抑揚で正しく発音できるようになること。また、その例文を聴いて意味を理解し、書きとれるようになることです。これができれば、主要文法項目はおのずと理解できます。

基礎フランス語Ⅲ・Ⅳ	
開講年次	組
２年次	＊＊＊

■授業の目標

２年目は、アクティヴラーニングの観点から実際の生活場面で出遭う会話の応答モデルを使って「話しながら」１年目に習った文法の基礎を生き生きとしたフランス語で肉付けします。この自発性を促す学習によって、聴き取りと読む力の速さが増し、書く技能の精度も飛躍的に向上するはずです。ヨーロッパ言語共通参照枠（仏語：CECRL，英語：CEFR）の A1 対応の教材の前半部分を使用して A1 レヴェル到達を準備します。

ジャンル横断歴史年表　（1700 ― 1949）

武蔵野音楽大学

	西洋史	西洋音楽史	西洋美術史	西洋文学・思想史	日本文学・芸能史
1700	1701 スペイン継承戦争、プロイセン王国成立	ピアノフォルテ、1700年頃までには開発 1700 コレッリ（伊）ヴァイオリン・ソナタ集作品5 1709 ヘンデル（独→英）《アグリッピーナ》			1702 松尾芭蕉『おくのほそ道』赤穂浪士、吉良邸を襲う（赤穂事件） 1703 義太夫節《曾根崎心中》（近松門左衛門） 1704 江戸長唄の初出
1710	1712 ペテルブルク遷都 1713 ユトレヒト条約 1714 イギリス、ハノーヴァー朝成立	1710 ヴィヴァルディ（伊）《調和の霊感》 1714 コレッリ（伊）《合奏協奏曲》 1715 A.スカルラッティ（伊）《ティグラーネ》 1717 ヘンデル（独→英）《水上の音楽》	1710 レン（英）《セント・ポール大聖堂》（ロンドン） 1717 ヴァトー（仏）《シテール島の巡礼》	1714 ライプニッツ（独）『単子論』 1719 デフォー（英）『ロビンソン・クルーソー』	1711 義太夫節《冥途の飛脚》（近松門左衛門） 1714 竹本義太夫没（1651-） 1715 義太夫節《国性爺合戦》（近松門左衛門）、箏曲の生田検校没（1656-） 1717- 享保の改革（徳川吉宗） 1719 義太夫節《平家女護島》（近松門左衛門）
1720	1728 ベーリング海峡発見（デンマーク人ベーリング）	1722 J.S.バッハ（独）《平均律クラヴィーア曲集第1巻》 1725 ヴィヴァルディ（伊）《四季》 1727 J.S.バッハ（独）《マタイ受難曲》	1729 カナレット（伊）《キリスト昇天祭における御座船の帰還》	1721 モンテスキュー（仏）『ペルシャ人の手紙』 1725 ヴィーコ（伊）『新しい学』 1726 スウィフト（英）『ガリヴァー旅行記』 1728 ゲイ（英）『乞食オペラ』	1720 義太夫節《心中天網島》（近松門左衛門） 1721 義太夫節《女殺油地獄》（近松門左衛門） 1724 近松門左衛門没（1653-）、歌舞伎劇場に屋根設置 1725 新井白石没（1657-）
1730	1733-35 ポーランド継承戦争	1733 ペルゴレージ（伊）《奥様女中》、ラモー（仏）《イポリートとアリシー》、テレマン（独）《ターフェルムジーク》 クープラン[大]（仏）没（1668-） 1735 J.S.バッハ（独）《イタリア協奏曲》 1737 ストラディヴァリ（伊）没（1644？）	1735-40 ジェルメン・ボフラン（仏）《オテル・ド・スービーズ》 フランスを中心とするロココ様式の流布 1737 シャルダン（仏）《ラケットを持つ少女》 1738 ヘルクラネウムの遺跡発見	フランス啓蒙思想（モンテスキュー、ヴォルテール ルソー、ディドロー） 1731 プレヴォー（仏）『マノン・レスコー』 1735 リンネ（スウェーデン）『自然の体系』 1739-40 ヒューム（英）『人性論』	1734 人形浄瑠璃の人形三人遣いに 1739 義太夫節《ひらかな盛衰記》（文耕堂ほか）、豊後節禁止
1740	1740-48 オーストリア継承戦争 1740-80 女帝マリア・テレジア（墺） 1740-86 フリードリヒ2世（プロイセン） 1748 ポンペイの遺跡発見	1741 ヴィヴァルディ没（1678-） 1742 ヘンデル（独→英）《メサイア》 1747 J.S.バッハ（独）《音楽の捧げ物》 1749 ヘンデル（独→英）《王宮の花火の音楽》	1740 ブーシェ（仏）《ヴィーナスの勝利》 1743-45 ホガース（英）《当世風の結婚》 1745-51《サン・スーシ宮殿》（ドイツ、ポツダム） 1748以降 ピラネージ（伊）《ローマ景観図》	1745 ゴルドーニ（伊）『二人の主人を一度に持つと』 1748 モンテスキュー（仏）『法の精神』 1749 フィールディング（英）『トム・ジョーンズ』	1746 義太夫節《菅原伝授手習鑑》（初世竹田出雲ほか） 1747 義太夫節《義経千本桜》（二世竹田出雲ほか）、常磐津節おこる 1748 義太夫節《仮名手本忠臣蔵》（二世竹田出雲ほか）
1750	1756 フランクリン（米）避雷針発明 1756-63 七年戦争	1750 J.S.バッハ没（1685-） 1752 クヴァンツ（独）『フルート奏法試論』 1752-54 パリでブフォン論争 1753 C.P.E.バッハ『クラヴィーア奏法』第1部（第2部は1762年） 1756 L.モーツァルト（独→墺）『ヴァイオリン教本』 1759 ヘンデル没（1685-）	この頃から新古典主義へ 1751 ロンギ（伊）《犀の見せ物》 1753 大英博物館設立 1755 ヴィンケルマン（独）『ギリシア芸術模倣論』	1751-72 フランス百科全書の編集（ディドロー、ダランベールなど） 1755 ルソー（仏）『人間不平等起源論』 1758 ケネー（仏）『経済表』 1759 ヴォルテール（仏）『カンディード』	1753 長唄《京鹿子娘道成寺》 1758 歌舞伎に回り舞台登場
1760	1762-96 女帝エカチェリーナ2世（露） 1763 パリ条約（英仏講和） 1765 ワット、蒸気機関車発明	1761 ハイドン（墺）エステルハージ家の副楽長に（66年から楽長） 1762 グルック（ボヘミア→墺）《オルフェーオとエウリディーチェ》 1764 ラモー（仏）没（1683−） 1767 グルック（独）《アルチェステ》	1766 レッシング（独）美術評論『ラオコーン』 1769 ティエーポロ（伊）《無原罪の御宿り》	1761 ディドロ（仏）『ラモーの甥』 1761-62 ルソー（仏）『ジュリもしくは新エロイーズ』 1762 ルソー（仏）『社会契約論』	1766 義太夫節《本朝廿四孝》（近松半二ほか） 1768 上田秋成『雨月物語』 1769 賀茂真淵没（1697-）
1770	1770年代 イギリス産業革命進行 1775-83 アメリカ独立戦争 1776 アメリカ13州独立宣言（宣言起草者トマス・ジェファーソン）	1772 ハイドン（墺）交響曲第45番《告別》 1772-74頃 パリでグルック・ピッチンニ論争が起こる 1777 ハイドン（墺）《月の世界》 1778 W.A.モーツァルト（墺）交響曲第31番《パリ》、フルート協奏曲第1番、第2番	1776頃 フラゴナール（仏）《読書する女》 1777 グルーズ（仏）《父の呪い》 1778 ミラノ、スカラ座開場	シュトゥルム・ウント・ドラング（疾風怒濤）時代（ドイツ1770-80年代） 1774 ゲーテ（独）『若きヴェルテルの悩み』 1775 ボーマルシェ（仏）『セビリアの理髪師』 1776 スミス（英）『国富論』	1771 義太夫節《妹背山婦女庭訓》（近松半二ほか）、尺八の黒沢琴古没（1710-） 1773 義太夫節《摂州合邦辻》（菅専助ほか） 1774 杉田玄白ほか『解体新書』 1778-98 本居宣長『古事記伝』
1780	1789 フランス革命おこる（三部会招集、国民議会、球戯場の誓い、バスティーユ襲撃封建的特権廃止宣言、人権宣言） 1789-97 アメリカ初代大統領ワシントン	1781 ハイドン（墺）《ロシア四重奏曲》、W.A.モーツァルト（墺）ウィーンを活動の拠点にする 1785-86 ハイドン（墺）《パリ交響曲》（交響曲82-88番） 1786 モーツァルト《フィガロの結婚》 1787 モーツァルト《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》 1788 モーツァルト 3大交響曲（第39、40、41番）	1780頃 グアルディ（伊）《ラグーンのゴンドラ》 1781頃 フュースリ（英）《夢魔》 1784 レノルズ（英）《悲劇のミューズに扮するサラ・シドンズ》 1785 ゲインズバラ（英）《朝の散歩》	1781 カント（独）『純粋理性批判』、シラー（独）『群盗』 ルソー（仏）『告白』 ドイツ古典主義（1786-1805） 1784 ボーマルシェ（仏）『フィガロの結婚』	1780 義太夫節《新版歌祭文》（近松半二） 1781 義太夫節《鎌倉三代記》（近松半二？） 1783 与謝蕪村没（1716-） 1784 常磐津節《積恋雪関扉》 1787 松平定信老中に（寛政の改革-1793）
1790	1792-1804 フランス、第1共和制 1793 第1回対仏大同盟 1795-99 フランス、総裁政府 1799 ブリューメル（霧月）18日のクーデター大統領ナポレオン（-1804） 1799 第2回対仏大同盟	1790-92 ハイドン（墺）第1回ロンドン訪問 1791 モーツァルト《魔笛》、《レクイエム》（未完）、12月没（1756-） 1792 ベートーヴェン（独）ウィーンを活動の拠点とする 1794-95 ハイドン（墺）第2回ロンドン訪問 1797-8 ベートーヴェン（独）ピアノソナタ第8番《悲愴》 1798 ハイドン（墺）《天地創造》初演	1793 ダヴィッド（仏）《マラーの死》、カノーヴァ（伊）《アモールとプシケー》 1798 ルーヴル美術館 1798-1805 ゴヤ（スペイン）《裸のマハ》	ドイツ・ロマン主義（1790-1830年代） 1795-96 ゲーテ（独）『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』 1797 サド（仏）『悪徳の栄え』 1798 ワーズワースとコールリッジの『抒情歌謡集』によりイギリス・ロマン主義おこる、マルサス（英）『人口論』	1794 歌舞伎《五大力恋緘》（並木五瓶） 1799 義太夫節《絵本太功記》（近松柳ほか）
1800	1801 大ブリテン=アイルランド連合王国成立 1804 ナポレオン、皇帝に（-1814）、オーストリア帝国成立 1805 トラファルガーの海戦（英提督ネルソン死）、アウステルリッツの戦い	1805 ベートーヴェン（独）交響曲第3番《英雄》 1808 ベートーヴェン（独）交響曲第5番《運命》、第6番《田園》 1809 ハイドン（墺）没（1732-）	1807 ダヴィッド（仏）《皇帝ナポレオンの聖別式と皇妃ジョゼフィーヌの戴冠》 1807-08 フリードリヒ（独）《山上の十字架》	1800 スタール夫人（仏）『文学論』 1802 シャトーブリアン（仏）『キリスト教精髄』 1804 シラー（独）『ヴィルヘルム・テル』 1806 ブレンターノ（独）『少年の魔法の角笛』編集 1807 ヘーゲル（独）『精神現象学』 1808 ゲーテ（独）『ファウスト』第1部、フィヒテ『ドイツ国民に告ぐ』	1800 伊能忠敬、蝦夷地の測量はじめる 1801 本居宣長没（1730-） 1802-09 十返舎一九『東海道中膝栗毛』 1804 歌舞伎《天竺徳兵衛韓噺》（鶴屋南北）、ロシア使節レザノフ、長崎に来る 1807-11 曲亭馬琴『椿説弓張月』 1809-13 式亭三馬『浮世風呂』
1810	1810 ナポレオン、オーストリア皇女マリー＝ルイズと結婚（ナポレオンの極盛時代） 1812 ナポレオン、ロシア遠征 1814 ウィーン列国会議（旧政体復活）、フランス 王政復古（ブルボン朝） 1815 ワーテルローの戦い（ナポレオン惨敗） 1818 アーヘン列国会議	1814 シューベルト（墺）《糸を紡ぐグレートヒェン》 1815 シューベルト（墺）《魔王》 1816 ロッシーニ（伊）《セビーリャの理髪師》	1814 ゴヤ（スペイン）《1808年5月3日》 1814 アングル（仏）《グランド・オダリスク》 1819 ジェリコー（仏）《メデューズ号の筏》（フランスロマン主義絵画の先駆け）	1810 スコット（英）『湖上の美人』 1811 ゲーテ『詩と真実』 1812 グリム兄弟（独）『グリム童話集』、バイロン（英）『チャイルド・ハロルドの遍歴』 1813 オースティン（英）『高慢と偏見』 1814 E.T.A.ホフマン（独）『カロ風の幻想作品集』 1817 リカード（英）『経済学及び課税の原理』 1819 ショーペンハウエル（独）『意志と表象としての世界』	1813 歌舞伎《於染久松色読販》（鶴屋南北） 1814 伊能忠敬『大日本沿海輿地全図』、清元節生まれる 曲亭馬琴『南総里見八大伝』（-1842） 1815 杉田玄白『蘭学事始』 1817 歌舞伎《桜姫東文章》（鶴屋南北）、箏曲の山田検校没（1757-）

	西洋史	西洋音楽史	西洋美術史	西洋文学・思想史	日本文学・芸能史
1820	1821 メッテルニヒ首相（オーストリア帝国） 1821-29 ギリシャ独立戦争 1823 モンロー教書（アメリカ合衆国） 1825 デカブリストの反乱（ロシア帝国）	1821 ヴェーバー（独）《魔弾の射手》 1822 シューベルト（墺）交響曲《未完成》 1824 ベートーヴェン（独）交響曲第9番 1826 ヴェーバー（独）没（1786-） 1827 ベートーヴェン（独）没（1770-） 1828 シューベルト（墺）没（1797-） 1829-32 ショパン（ポーランド）《12の練習曲》op.10	1824 ドラクロワ（仏）《キオス島の虐殺》、コンスタブル（英）《乾草車》 1824-27 ブレイク（英）ダンテ神曲のための水彩連作画	1820 ラマルチーヌ（仏）『瞑想詩集』 1824 バイロン（英）ギリシャ独立戦争に参加し戦病死 1827 マンゾーニ（伊）『いいなづけ』	1820 小林一茶『おらが春』 1825 歌舞伎《東海道四谷怪談》（鶴屋南北）、義太夫節《三十三間堂棟木由来》（若竹笛躬ほか）、異国船打払い令 1826 大蘆摩が長唄に吸収される 1827 小林一茶没（1763-） 1829 鶴屋南北没（1755-）
1830	1830 フランス、七月革命	1830 ベルリオーズ（仏）《幻想交響曲》 1831 ベッリーニ（伊）《ノルマ》、マイヤベーア（独）《悪魔ロベール》、ショパン（波）パリを活動の拠点とする 1833 メンデルスゾーン（独）交響曲第4番《イタリア》 1835 ドニゼッティ（伊）《ランメルモールのルチーア》、ベッリーニ（伊）没（1801-）	1830 コロー（仏）《シャルトル大聖堂》	1830 ユゴー（仏）『エルナニ』（エルナニ事件）、スタンダール（仏）『赤と黒』 1831 ゲーテ『ファウスト』第2部 1832 メーリケ（独）『画家ノルテン』 1834 プーシキン（露）『スペードの女王』 1835 アンデルセン（デンマーク）『即興詩人』	1831 舞踊《六歌仙容彩》 1832 舞踊《三社祭》、為永春水『春色梅児誉美』（-1833） 1837 大塩平八郎の乱
1840	1848-52 フランス、二月革命、第2共和制 大統領ルイ=ナポレオン 1848 ウィーン、ベルリン三月革命、カリフォルニア、金鉱発見	1840 シューマン（独）《詩人の恋》、《女の愛と生涯》 1842 ヴェルディ（伊）《ナブッコ》、メンデルスゾーン（独）交響曲第3番《スコットランド》 1843 ヴァーグナー（独）《さまよえるオランダ人》、メンデルスゾーン（独）《夏の夜の夢》 1847 メンデルスゾーン（独）没（1809-） 1848 ドニゼッティ（伊）没（1797-） 1849 ショパン（ポーランド）没（1810-）	1844 ターナー（英）《雨、蒸気、速度：グレート・ウェスタン鉄道》 1848 ラファエロ前派結成	1843 ディケンズ（英）『クリスマス・キャロル』、ポー（米）『黒猫』、ゴーゴリ（露）『外套』 1844 デュマ（父）（仏）『三銃士』、『モンテ=クリスト伯』 1845 メリメ（仏）『カルメン』 1847 C.ブロンテ（英）『ジェイン・エア』、E.ブロンテ（英）『嵐が丘』 1848 マルクス（独）『共産党宣言』、ミル（英）『経済学原論』 デュマ（子）（仏）『椿姫』	1840 長唄《勧進帳》 1841 天保の改革 1845 長唄《秋色種》 1847 齋藤月岑『声曲類纂』 1848 箏曲の八重崎検校没（1776?-） 1849 葛飾北斎（1760-）
1850	1851 ロンドン万国博覧会（第1回） 1852 フランス、第2帝政、皇帝ナポレオン3世 1853-69 パリ大改造 1855 パリ万国博覧会（第1回）	1851、53 リスト（ハンガリー）《ハンガリー狂詩曲》 1853 ヴェルディ（伊）《ラ・トラヴィアータ》 1854 リスト（ハンガリー）交響詩《レ・プレリュード》 1856 シューマン（独）没（1810-） 1858 オッフェンバック（独→仏）《地獄のオルフェ》 1859 グノー（仏）《ファウスト》	1850-51 パクストン（英）《水晶宮（クリスタルパレス）》 1852 ミレイ（英）《オフィーリア》 1855 クールベ（仏）《画家のアトリエ》 この頃写実主義広がる	1852 ツルゲーネフ（露）『猟人日記』 1855 ホイットマン（米）『草の葉』 1857 ボードレール（仏）『悪の華』、フローベル（仏）『ボヴァリー夫人』 1859 ダーウィン（英）『種の起原』	1853 歌舞伎《与話情浮名横櫛》（瀬川如皐）、この頃箏曲の光崎検校没（?-）、浦賀に黒船来航 1857 新内節《明烏后正夢》 1858 安政の大獄
1860	1861 アメリカ,南北戦争（-65）、イタリア王国建設 1862-90 ビスマルク、プロイセンの宰相に就任 1863 リンカーン（米）の黒人奴隷解放宣言 1864 ジュネーヴ協定（国際赤十字同盟）第1次インターナショナル(国際労働者協会)ロンドンに設立（-74） 1869 スエズ運河開通	1865 ヴァーグナー（独）《トリスタンとイゾルデ》、シューベルト（墺）の交響曲《未完成》発見 1868 ロッシーニ（伊）没（1792-） 1869 ベルリオーズ（仏）没	1863 マネ（仏）《草上の昼食》《オランピア》 1864-70 ロセッティ（英）《ベアタ・ベアトリックス》 1864 モロー（仏）《オイディプスとスフィンクス》 1864頃 ドーミエ（仏）《三等車両》 1867 ミレー（仏）《晩鐘》 1869 ウィーン国立歌劇場開場	1860 ブルクハルト（スイス）『イタリア・ルネサンスの文化』 1862 ユゴー（仏）『レ・ミゼラブル』 1865-69 トルストイ（露）『戦争と平和』、キャロル（英）『不思議の国のアリス』 1866 ドストエフスキー（露）『罪と罰』	1860 歌舞伎《三人吉三廓初買》（河竹黙阿弥）、桜田門外の変 1861 新内節の富士松魯中没（1797-） 1862 歌舞伎《青砥稿花紅彩画》（河竹黙阿弥） 1868 明治維新
1870	1870-71 プロイセン=フランス戦争、フランス第3共和制（-1940） 1871 ドイツ帝国建設（ウィルヘルム1世、ヴェルサイユ宮殿で戴冠）、ドイツ帝国憲法発布、帝国宰相ビスマルク（-90） 1876 ベル（米）電話機発明 1877 エジソン（米）蓄音機発明	1871 ヴェルディ（伊）《アイーダ》 1874 ムソルグスキー（露）組曲《展覧会の絵》 1874-79 スメタナ（チェコ）連作交響詩《我が祖国》（全6 曲） 1875 ビゼー（仏）《カルメン》 1876 ヴァーグナー（独）《ニーベルングの指輪》4部作上演（バイロイト音楽祭始まる）、グリーグ（ノルウェー）《ペール・ギュント》、ブラームス（独）交響曲第1番」（-62年） 1877 サン=サーンス（仏）《サムソンとデリラ》、チャイコフスキー（露）《白鳥の湖》 1879 チャイコフスキー（露）《エフゲニー・オネーギン》	1870 ウィーン楽友協会ホール 1872 モネ（仏）《印象－日の出》 1873 ドガ（仏）《稽古場の踊り子》 1874 第1回印象派展 1875 パリ、オペラ座開場 1876 ルノワール（仏）《ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏場》	1871 ジェヴォンズ（英）『経済学の理論』、メンガー（墺）『国民経済学原理』 1874 ワルラス（仏）『純粋経済学要論』 1876 ゾラ（仏）『居酒屋』、マラルメ（仏）『半獣神の午後』 1879 イプセン(ノルウェー)『人形の家』、ドストエフスキー(露)『カラマーゾフの兄弟』	1870 宮内省が楽部設置 1871 陸海軍の軍楽隊発足、当道座（地歌箏曲）および普化宗（尺八）の廃止 1872 福沢諭吉『学問のすゝめ』、箏曲の吉沢検校没（1801-）、太陽暦となる 1873 歌舞伎《梅雨小袖昔八丈》（河竹黙阿弥） 1876『明治撰定雅楽譜』（1888にも） 1878 新富座開場（ガス灯設備） 1879 義太夫節《壺坂霊験記》（作者未詳）、文部省に音楽取調掛設置
1880	1882 三国同盟成立（独、墺、伊） 1883 ダイムラー（独）自動車発明 1884 アフリカ分割に関するベルリン列国会議 1885 ヘルツ、電磁波存在の証明 1886 著作権条約（ベルヌ条約）成立 1887-89 エッフェル（仏）《エッフェル塔》 1889-1914 第2インターナショナル	1883 ヴァーグナー（独）没（1813-） 1884 マスネ（仏）《マノン》 1886 サン＝サーンス（仏）交響曲第3番《オルガン付き》 リスト（ハンガリー）没（1811-） 1887 ヴェルディ（伊）《オテッロ》 1888 リムスキー＝コルサコフ（露）交響曲《シェヘラザード》 1888-94 マーラー（墺）交響曲第2番《復活》	1880 ベックリン（スイス）《死の島》 1883- ガウディ（スペイン）《サグラダ・ファミリア》 この頃後期印象派 1884-86 スーラ（仏）《グランド・ジャット島の日曜日の午後》 1885-95 ロダン（仏）《カレーの市民たち》 1886頃 セガンティーニ（伊）《湖をわたるアヴェ・マリア》 1887 セザンヌ（仏）《サン・ヴィクトワール山》 1888-89 アンソール（ベルギー）《キリストのブリュッセル入城》	1880 ヴェルガ（伊）『田園生活』（「カヴァレリーア・ルスティカーナ」を含む） 1883 コッローディ（伊）『ピノッキオ』、モーパッサン（仏）『女の一生』 1883-85 ニーチェ（独）『ツァラトゥストラかく語りき』 1886 ニーチェ（独）『善悪の彼岸』、デ・アミーチス（伊）『クオーレ』、ランボー（仏）『イリュミナション』 1889 ベルグソン（仏）『時間と自由』	1880 現行の《君が代》作曲され、初演される 1881 歌舞伎《天衣紛上野初花》（河竹黙阿弥）、芝公園紅葉山に能楽社結成,『小学唱歌集』（-1884） 1882 外山正一ほか『新体詩抄』 1883 鹿鳴館落成 1885-86 坪内逍遙『小説神髄』 1886 この頃から演劇改良運動さかん 1887 東京音楽学校設立、二葉亭四迷『浮雲』（-1889） 1888 新派劇始まる、小中村清矩『歌舞音楽略史』 1889 大日本帝国憲法発布、皇室典範制定、歌舞伎座開場
1890	1890 第1回メーデー 1893 ディーゼル（独）内燃機関発明 1894-1906 ドレフュス事件（仏） 1895 マルコーニ（伊）無線電信発明、レントゲン（独）X線発見 1896 第1回オリンピック(アテネ)、ベクレル(仏)ウラン鉱石から放射能を発見 1898 アメリカ=スペイン戦争でスペイン敗北 キュリー夫妻（仏）ラジウム発見 1899 アメリカ、中国に対する門戸開放宣言	1890 マスカーニ（伊）《カヴァレリーア・ルスティカーナ》 1892 レオンカヴァッロ（伊）《道化師》 1892-94 ドビュッシー（仏）《牧神の午後への前奏曲》 1893 チャイコフスキー（露）交響曲第6番《悲愴》、没（1840-）、ドヴォルザーク（チェコ）交響曲第9番ホ短調《新世界より》、ヴェルディ（伊）《ファルスタッフ》 1897 ブラームス（独）没（1833-） 1898 リヒャルト・シュトラウス（独）《英雄の生涯》	1890 ゴッホ（オランダ）《カラスのいる麦畑》 1893 ムンク（ノルウェー）《叫び》、ロートレック（仏）《踊るジャヌ・アヴリル》 1897 ゴーギャン(仏)《我々は何処から来たのか、我々は何者か、我々は何処へ行くのか》、ルソー（仏）《眠れるジプシー女》 1897-1902 クリンガー（独）《ベートーヴェン》 1898-1900 ルドン（仏）《キュクロプス》 この頃象徴主義/ アール・ヌーヴォー	1890 マーシャル（英）『経済学原理』、フレイザー（英）『金枝編』、ロートレアモン（仏）『マルドロールの歌』 1891 ワイルド（英）『ドリアン・グレイの肖像』、ヴェーデキント（独）『春のめざめ』 1892 メーテルランク（ベルギー）『ペレアスとメリザンド』 1894 ダンヌンツィオ（伊）『死の勝利』 1899 マラルメ（仏）『詩集』、チェーホフ（露）『ワーニャ伯父さん』、トルストイ（露）『復活』 19世紀後半、フランスを中心にドイツなどでも自然主義運動が起こり、イタリアではヴェリズモ（真実主義）の文学運動おこる	1890 森鷗外『舞姫』、バーネット『小公子』（若松賤子訳） 1891-92 幸田露伴『五重塔』 1892-1901 アンデルセン『即興詩人』（森鷗外訳） 1893 河竹黙阿弥没（1816-）、《君が代》小学校の祝祭日の儀式用唱歌として告示、舞踊《鏡獅子》 1894-95 日清戦争 1895 上原六四郎『俗楽旋律考』 1895-96 樋口一葉『たけくらべ』 1897 島崎藤村『若菜集』

	西洋史	西洋音楽史	西洋美術・映画史	西洋文学・思想史	日本文学・芸能史
1900	1901 ヴィクトリア女王（英） 崩御（1837-） 米西戦争の終結（1897年-）、大統領マッキンリー暗殺（米） 1902 日英同盟、ブーア戦争の終結（南ア 1899年-） 1904 英仏協商を締結、日露戦争（-1905） 1905 韓国総督府設置（日）、第一次モロッコ事件、ロシア第一次革命 1906 労働党の結党 1907 英露協商の締結（英仏露「三国協商」の成立） 1908 コンゴを直轄領とする（白）、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ併合、青年トルコ革命 1909 伊藤博文暗殺	1900 シベリウス（フィンランド）《フィンランディア》、プッチーニ（伊） 歌劇《トスカ》、レーガー（独）《BACHの主題による幻想曲とフーガ》 1901 エルガー（英）《威風堂々第1番》、ラヴェル（仏）《水の戯れ》、ラフマニノフ（露/米） ピアノ協奏曲第2番、ヴェルディ（伊） 没（1813-） 1902 チレーア（伊） 歌劇《アドリアーナ・ルクヴルール》、ドビュッシー（仏） 歌劇《ペレアスとメリザンド》 1903 プッチーニ（伊） 歌劇《蝶々夫人》、ヤナーチェク（チェコ） 歌劇《イェヌーファ》 1905 R.シュトラウス（独） 歌劇《サロメ》、ダンディ（仏）《山の夏の日》、マーラー（墺） 交響曲第8番「千人の交響曲」 1907 リムスキー =コルサコフ（露） 歌劇《金鶏》 1908 マーラー（墺）《大地の歌》、レーガー（独）《ヴァイオリン協奏曲》、リムスキー =コルサコフ（露） 没（1844-） 1909 アルベニス（西）《イベリア》	1901 クリムト（墺）《ユーディットⅠ》 ※パリ万国博覧会におけるシネマトグラフの上映 1902 メリエス（仏）【月世界旅行】 1903 ポーター（米）【大列車強盗】 1907 ピカソ（西）《アヴィニョンの娘たち》、フィヤード（仏）監督活動開始（-1924） 1908 グリフィス（米） 監督活動開始、映画技法の確立に貢献（-1925）	1900 ボーム（米）『オズの魔法使い』、トルストイ（露）《生ける屍》の創作（1911初演）、フロイト（墺）『夢判断』 ベルクソン（仏）『笑い』 1901 Th.マン（独）『ブッテンブローク家の人々』、チェーホフ（露）《三人姉妹》 1902 ジッド（仏）『背徳者』、ゴーリキー（露/ソ）《どん底》 クローチェ（伊）『表現の学および一般言語学としての美学』 1903 Th.マン（独）『トニオ・クレーガー』、バスコリ（伊）『カステルヴェッキオの歌』、サーバ（伊）『私の最初の詩の本』 1904 ロラン（仏）『ジャン=クリストフ』（-1912）、バリー（英）《ピーターパン》、ハーン（英/日）『怪談』、マリネッティ（伊）『破壊』、ピランデッロ（伊）『死せるマッティア・パスカル』 デレッダ（伊）『灰』、チェーホフ（露）《桜の園》 1905 ヴェーバー（独）『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 1906 ヘッセ（独）『車輪の下』 1907 リルケ（独）『新詩集』、ベルクソン（仏）『創造的進化』 1908 メーテルランク（白）《青い鳥》、モンゴメリー（加）『赤毛のアン』 1909 ジッド（仏）『狭き門』、マリネッティ（伊）『未来派宣言』 レーニン（露/ソ）『唯物論と経験論批判』（英語）	1901 鈴木鼓村 新様式の箏曲創始（のち京極流と命名）《美しき天然》流行 1902 四世吉住小三郎・三世杵屋六四郎 長唄研精会を設立 平岡吟舟《向島八景》《大磯八景》（東明節の初期作） 1903 グルック《オルフォイス》（日本語による最初のオペラ上演）、滝廉太郎没（1879-） 1904 中尾都山《慺月調》、五世豊沢広助没（1831-）、坪内逍遥『新楽劇論』、日露戦争（- 1905） 1905 北村季晴《露営の夢》（日本人初のオペラ）、田中正平 邦楽研究所を創設、 夏目漱石『吾輩は猫である』（-1907） 1906 永田錦心 錦心流を創始、島崎藤村『破戒』 1907 義務教育4年から6年になる、東京音楽学校に邦楽調査掛を設置、桃中軒雲右衛門（浪曲中興の祖）《義士銘々伝》などを口演し好評 1908 川上貞奴 帝国女優養成所を設立、藤沢浅二郎 東京俳優養成所を設立（1910東京俳優学校と改称） 1909 宮城道雄《水の変態》、日本蓄音器商会発足し、レコード生産始まる、小山内薫ら自由劇場を組織（第一回試演《ジョン・ガブリエル・ボルクマン》）、文芸協会付属演劇研究所開設
1910	1910 日韓併合条約 1911 伊土戦争でリビアを併合 1912 辛亥革命、清朝崩壊、バルカン戦争（-1913） 1914-1918 第一次世界大戦 1917 ロシア革命、「勤労し搾取されている人民の権利の宣言」、ドイツに宣戦布告 1919 ヴェルサイユ講和会議、コミンテルン ワイマール共和国成立	1910 スクリャービン（露）《プロメテウス》、ストラヴィンスキー（露/米） バレエ音楽《火の鳥》 1911 グラナドス（西）《ゴイェスカス》、シェーンベルク（墺/米）《グレの歌》、バルトーク（洪/米）《アレグロ・バルバロ》、マーラー（墺） 没（1860-）、ドビュッシー（仏） 神秘劇《聖セバスチャンの殉教》、R.シュトラウス（独） 歌劇《ばらの騎士》 1912 カウエル（米）《マノノーンの潮流》、シェーンベルク（墺/米）《月に憑かれたピエロ》、山田耕筰（日） 交響曲《かちどきと平和》 1913 ストラヴィンスキー（露/米） バレエ音楽《春の祭典》 1914 ザンドナーイ（伊） 歌劇《フランチェスカ・ダ・リミニ》 1915 アイヴズ（米） ピアノソナタ第2番《マサチューセッツ州コンコード 1840 ～ 60年》、シュレーカー（墺） 歌劇《烙印を押された人々》、プフィッツナー（独） 歌劇《パレストリーナ》、ルリエ（露/米）《大気のかたち》、スクリャービン（露） 没（1872-） 1916 サティ（仏） バレエ音楽《パラード》（1917初演）、シマノフスキ（波） 交響曲第3番《夜の歌》、ホルスト（英）《惑星》、ニールセン（丁） 交響曲第4番《不滅》、メノッティ（伊/米） 歌劇《アメリア舞踏会へ行く》 1918 マルティヌー（チェコ/米）《チェコ狂詩曲》、ドビュッシー（仏） 没（1862-） 1919 ファリャ（西）《三角帽子》	1910 カンディンスキー（露／独／仏）《コンポジションNo.2》、ブランクーシ（ルーマニア）《接吻》 1911 シャガール（露/仏）《私と村》、ブラック（仏）《ポルトガル人》 1912 アーキペンコ（露/米）《歩く女》 1913 デュシャン（仏）《階段を下りる裸体》、フィヤード（仏）【ファントマ・シリーズ】5作（-1914） 1914 ココシュカ（墺）《嵐》、レアマン（墺/米）【成功争ひ】、【ヴェニスの子供自転車競走】 1915 マレーヴィチ（露/ソ）《黒の正方形》、デュシャン（仏）《独身者たちによって裸にされた、花嫁、さえも》（-1923）、フィヤード（仏）【ヴァンパイア】、グリフィス（米）【国民の創生】、マッケイ（米）【恐竜ガーティ】、チャップリン（英）【チャップリンの拳闘】他4本 1916 モネ（仏）《睡蓮》壁画シリーズに着手 1917 デュシャン（仏）《泉》、ピカソ（西） ディアギレフのバレエ《パラード》の舞台美術と衣装を担当 1918 マレーヴィチ（露/ソ）《白の上の白》 1919 モディリアーニ（伊）《横たわる裸婦》、ヴィーネ（独）【カリガリ博士】、ドライェル（丁）【裁判長】	1910 リルケ（独）『マルテの手記』、ホワイトヘッド（英） & B.ラッセル（英）『数学原理』（-1913） ※イギリス表現主義（-1925頃）※「ロシア・アヴァン・ギャルド」（-1930初頭） 1911 ホフマンスタール（墺）《ばらの騎士》、ダヌンツィオ（伊）《聖セバスチャンの殉教》 1912 フランス（仏）『神々は渇く』、Th.マン（独）『ベニスに死す』、シュンペーター（墺洪/米）『経済発展の理論：企業者利潤・資本・信用・利子および景気の回転に関する一研究』（独語版）、デュルケム（仏）『宗教生活の原初形態』 1913 プルースト（仏）『失われた時を求めて』（-1927）、ローレンス（英）『息子たちと恋人たち』、アポリネール（ポーランド/仏）『アルコール』、ソシュール（瑞西）『一般言語学講義』 1914 ジョイス（愛）『ダブリン市民』 1915 カフカ（墺）『変身』、フロイト（墺）『抑圧』 1916 コクトー（仏）《パラード》、ウンガレッティ（伊）『埋もれた港』、ツァラ（ルーマニア/仏）「チューリヒ・ダダ」（「ダダ」の命名）、アインシュタイン（独/無国籍/瑞西/墺洪/独/米）『一般相対性理論の基礎』 1917 ヴァレリー（仏）『若きパルク』、アポリネール（ポーランド/仏）《ティレジアスの乳房》、フロイト（墺）『精神分析入門』 1918 ツァラ（ルーマニア/仏）『ダダイスム第2宣言』 1919 ヴァレリー（仏）『精神の危機』、デューイ（米）『民主主義と教育』、ホイジンガ（蘭）『中世の秋』	1910『尋常小学読本唱歌』、《七里ヶ浜の哀歌》 1911『尋常小学唱歌』（-1914）、福井直秋『尋常小学唱歌伴奏楽譜歌詞評釈』（-1914）、帝国劇場開場、文芸協会《人形の家》を上演、岡本綺堂《修禅寺物語》 川上音二郎没（1864-）、四世吉住小三郎・三世杵屋六四郎《紀文大尽》、平家琵琶奏者藤村性禅没（波多野流断絶） 1912 帝国劇場歌劇部指導のためイタリアよりローシーを招聘、森田吾郎が大正琴を考案・販売、東京音楽学校編『近世邦楽年表　常磐津・富本・清元之部』 1913 福井直秋『祝日唱歌伴奏譜』、島村抱月・松井須磨子ら芸術座を創設 1914 夏目漱石『こころ』、トルストイ《復活》（劇中歌《カチューシャの唄》流行）、宝塚少女歌劇団創設（のち宝塚歌劇団）、東京音楽学校編『近世邦楽年表　江戸長唄之部』 1915 芥川龍之介『羅生門』、泉鏡花《日本橋》 1916 夏目漱石没（1867-）、桃中軒雲右衛門没（1873-） 岡本綺堂《番町皿屋敷》 1917 新国劇結成、浅草オペラ流行（1923頃まで）、伊澤修二没（1851-）、五世杵屋勘五郎没（1875-） 1918 鈴木三重吉主宰『赤い鳥』創刊、島村抱月没（1871-） 1919 武者小路実篤『友情』、松井須磨子没（1886-）
1920	1920 国際連盟発足 1921 ナチス党首・ヒトラー、ワシントン条約 中国共産党結成 1922ムッソリーニ（伊） 支配、ソビエト連邦成立、ベルリン・フィルのフルトヴェングラー時代（-1954） 1923 トルコ共和国成立(仏)、ルール占領(独) ミュンヘン一揆 1925 ロカルノ条約 1927 山東出兵、蒋介石が南京国民政府樹立 1928 張作霖爆殺事件、C.シュミット（独）『憲法論』、パリ不戦条約 1929 世界大恐慌（Black Thursday10/24） ロンドン軍縮会議	1920 ヴォーン=ウィリアムズ（英）《揚げひばり》、サティ（仏）《家具の音楽》、ストラヴィンスキー（露/米） バレエ音楽《プルチネッラ》 1922 イベール（仏）《寄港地―3つの交響的絵画》、ベルク（墺） 歌劇《ヴォツェック》 1923 カウエル（米）《エオリアン・ハープ》、ミヨー（仏） バレエ音楽《世界の創造》、ヤナーチェク（捷） 歌劇《女狐ビストロウシュカの物語》 1924 イザイ（白）《無伴奏ヴァイオリンソナタ》、ガーシュウィン（米）《ラプソディ・イン・ブルー》、ブゾーニ（伊） 歌劇《ファウスト博士》、ラヴェル（仏）《ツィガーヌ》、フォーレ（仏） 没（1845-）、プッチーニ（伊） 没（1858-） 1926 コダーイ（洪） 歌劇《ハーリ・ヤーノシュ》、モソロフ（露/ソ）《鉄工場》 1928 ヴァイル（独/米）《三文オペラ》、ラヴェル（仏）《ボレロ》、レスピーギ（伊）《ローマの祭》	1920 レジェ（仏）《機械工》、ベーゼ（独）& ヴェゲナー（独）【巨人ゴーレム】 1921 エルンスト（独）《セベレスの象》、チャップリン（英）【キッド】、スモールウッド（米）【椿姫】 1922 モホリ=ナジ（洪）《光・空間変調器》 ムルナウ（独）【吸血鬼 ノスフェラトゥ】 1923 ニューメイヤー（米） &テイラー（米）【ロイドの要心無用】 1924 ディクス《戦争》エッチング連作、早川雪舟&ヴィオレ（仏）【ラ・バタール】、ラング（独）【ニーベルンゲン：ジークフリート】、【ニーベルンゲン：クリームヒルトの復讐】 1925 グロピウス（独） デッサウのバウハウス校舎を設計、チャップリン（英）【黄金狂時代】、パーブスト（墺）【喜びなき街】、ムルナウ（独）【最後の人】、ニューメイヤー（米）【ハロルドの人気者】 ジュリアン（米）【オペラ座の怪人】、エイゼンシュテイン（露/ソ）【戦艦ポチョムキン】 1926 ムルナウ（独）【ファウスト】、ベル（米）【イバニエスの激流】、ブラウン（米）【肉体と悪魔】 1927 ラング（独）【メトロポリス】、ドライェル（丁）【裁かるるジャンヌ】、ボーゼイギー（米）【第七天国】、クロスランド（米）【ジャズシンガー】 1928 ライスナー（米） &キートン（米）【キートンの蒸気船】、ディズニー（米）【蒸気船ウィリー】 ブニュエル（西） &ダリ（西）【アンダルシアの犬】 1929 ムア（英）《横たわる人物》、モンドリアン（蘭）《黄と青のコンポジション》、ル・コルビュジエ（瑞西） サヴォワ邸設計（-1931）、ニューヨーク近代美術館（MOMA） 開館、ボーモント（米）【ブロードウェイ・メロディ】	1920 デュ・ガール（仏）『チボー家の人々』（-1940）、フロイト（墺）『快楽原則の彼岸』 1921 ピランデッロ（伊）《作者を探す六人の登場人物》 ヴィトゲンシュタイン（墺）『論理学論考』（独語版）、ドゥーエ（伊）『制空』、ユング（瑞西）『心理学的類型』 1922 エリオット（英）『荒地』、ジョイス（愛）『ユリシーズ』 ヴァレリー（仏）『魅惑』 1923 リルケ（独）『ドゥイノの悲歌』、ボルヘス（アルゼンチン）『ブエノス・アイレスの熱狂』、ブーバー（墺）『我と汝』 1924 ブルトン（仏）『シュールレアリスム宣言・溶ける魚』 ヴァレリー（仏）『ヴァリエテ』（-1944） 1925 ジッド（仏）『贋金つくり』、モンターレ（伊）『烏賊の骨』 フィッジェラルド（米）『グレート・ギャッツビー』、ヒトラー（墺/独）『我が闘争』（-1926）、ミッチェル（米）『空軍による防衛』 1926 カフカ（墺）『城』 1927 リデル=ハート（英）『近代軍の再建』、ハイデガー（独）『存在と時間』 1928 ローレンス（英）『チャタレー夫人の恋人』、ブレヒト（独）《三文オペラ》、ショーロホフ（露/ソ）『静かなドン』（-1940） ロラン（仏）『ベートヴェン研究』（-1945） 1929 コクトー（仏）『恐るべき子供たち』、モラーヴィア（伊）『無関心な人びと』、ヘミングウェイ（米）『武器よさらば』、フォークナー（米）『響きと怒り』	1920 菊池寛《父帰る》、新文芸協会設立、プロレタリア演劇運動始まる、宮城道雄・本居長世らによる作品発表会に「新日本音楽」の名称を用いる（箏曲近代化の初め） 1921 藤蔭静枝《思凡》（新舞踊運動）、山本有三《坂崎出羽守》、宮城道雄が十七絃を発表 1922 福井直秋『ヘルプスト唱歌』（-1925）、森鷗外没（1862-）、アンナ・パブロワ舞踊団来日《瀕死の白鳥》などを上演 1923 小山内薫《息子》、有島武郎没（1878-）、関東大震災 大倉喜七郎が大倉式尺八を考案（1935オークラウロの名で発表） 1924 福井直秋『ヘルプスト行進曲』、築地小劇場開場 岸田國士《チロルの秋》、三世竹本越路太夫没（1865-） 1925 東京放送局（のちの日本放送協会） ラジオ放送を開始 1926 新交響楽団（のちのＮＨＫ交響楽団） 発足、水藤錦穣が錦琵琶を創始 1927 山田耕筰《赤とんぼ》、芥川龍之介没（1892-） 1928 ラジオ体操の放送開始（伴奏曲は福井直秋の曲） 久保田万太郎《大寺学校》、小山内薫没（1881-）、衣笠貞之助【十字路】（1929ヨーロッパでも公開） 1929 武蔵野音楽学校創立、宮城道雄《春の海》、沢田正二郎没（1892-）、築地小劇場分裂、 日本プロレタリア劇場同盟結成

	西洋史	西洋音楽史	西洋美術・映画史	西洋文学・思想史	日本文学・芸能史
1930	1931 スペイン第二共和国成立、エンパイア・ステートビル完成、満洲事変 1932 上海事変、満洲国建国宣言 1933 ヒトラー内閣、議事堂炎上、授権法 全国文化院法、ベルリン・フィルに財政支援 日本が国際連盟を脱退、ドイツが国際連盟脱退 1934 ? -1939 スターリン大粛清 1934 ヒトラー大統領兼務、帝国オーケストラ設立、民族裁判所設置、満洲国帝政 1935 ニュルンベルク人種法、エチオピア侵略 アビシニア戦争 1936 2.26事件、ラインラント進駐、フランス人民戦線内閣成立、スペイン内乱、ベルリン・オリンピック、日独防共協定 1937 ゲルニカ爆撃、盧溝橋事件、日中戦争開始、南京大虐殺、日独伊防共協定 1938 独がオーストリア併合、ミュンヘン会議 水晶の夜、フランス人民戦線崩壊、東亜新秩序声明、張鼓峰事件 1939 ノモンハン事件、国民徴用令（日）、独ソ不可侵条約、安楽死計画開始（独）、ポーランド侵攻、第二次世界大戦勃発、朝鮮総督府の創氏改名強制	1930 ヴィラ=ロボス（ブラジル）《ブラジル風バッハ第1番》 ディーリアス（英）《夏の歌》 1931 ヴァレーズ（仏/米）《イオニザシオン》 1932 ショスタコーヴィチ（露/ソ）歌劇《ムツェンスク郡のマクベス夫人》 1934 ウェーベルン（墺）《9つの楽器のための協奏曲》 1935 伊福部昭《日本狂詩曲》、オネゲル（瑞西）オラトリオ《火刑台上のジャンヌ・ダルク》（1935作曲、1938演奏会形式の初演、1942舞台初演）、ガーシュウィン（米）歌劇《ポーギーとベス》、ヒンデミット（独/米）歌劇《画家マティス》 ベルク（墺）没（1885-）歌劇《ルル》未完 1936 ウェーベルン（墺）《ピアノのための変奏曲》、ヴォルフ=フェラーリ（伊）歌劇《イル・カンビエッロ》、オルフ（独）《カルミナ・ブラーナ》、プロコフィエフ（露/ソ）バレエ音楽《ロメオとジュリエット》、ミヨー（仏）《プロヴァンス組曲》 1937 ショスタコーヴィチ（露/ソ）交響曲第5番、バーバー（米）《弦楽のためのアダージョ》、ガーシュウィン（米）没（1898-）、ラヴェル（仏）没（1875-） 1939 ロドリーゴ（西）《アランフェス協奏曲》	1930 ロース（墺）プラハにミュラー・ハウス設計 スタンバーグ（米）【モロッコ】、【嘆きの天使】 1931 ダリ（西）《記憶の固執》、チャップリン（英）【街の灯】、ラング（独）【M】、パーブスト（墺）【三文オペラ】 1932 ボーゼイギー（米）【武器よさらば】 ドライェル（丁）【吸血鬼】 1933 ベックマン（独）《出発》制作開始、クーパー（米）【キングコング】、マッケリー（米）【我輩はカモである】 ※（独）ウーファー社解体、帝国映画院の設立 1934 リーフェンシュタール（独）【意志の勝利】 ※1934年以降、トーキー映画が主流となる 1935 ライト（米）ペンシルヴェニアに「カウフマン・ハウス」建設（-1939） 1935 ヒッチコック（英）【39夜】、フェデー（仏）【女だけの都】、サンドリッチ（米）【トップ・ハット】 1936 ゴンザレス（西）《モンセラート》、チャップリン（英）【モダンタイムス】、グールディング（英）【グランド・ホテル】、リーフェンシュタール（独）【オリンピア】 1937 ピカソ（西）《ゲルニカ》、ミュンヘン大学付属考古学研究所「退廃美術展」、ミュンヘン「ドイツ芸術の家」で「大ドイツ芸術展」 J.ルノワール（仏）【大いなる幻影】、デュヴィヴィエ（仏）【望郷】、ハンド（米）【白雪姫】 1938 カーティス（米）【ロビンフッドの冒険】 1939 クレー（瑞西）《美しい庭師》、J.ルノワール（仏）【ゲームの規則】、フレミング（米）【オズの魔法使い】、【風と共に去りぬ】	1930 ムジール（墺）『特性のない男』（-1933）、プラーツ（伊）『ロマン主義文学における肉体と死と悪魔』 1931 バック（米）『大地』 1932 A.ハクスレイ（英）『すばらしい新世界』、セリーヌ（仏）『夜の果てへの旅』、フォークナー（米）『八月の光』 ド・ゴール（仏）『剣の刃』、ノイマン（洪/米）『量子力学の数学的基礎』 1933 マルロー（仏）『人間の条件』、エリアーデ（ルーマニア）『マイトレイ』、フロイト（墺）『続精神分析入門』 1934 ガッダ（伊）『ウーディネの城』、トインビー（英）『歴史の研究 I, II, III』（IV, V, VIは1939, VII, VIII, IX, Xは1954） ミード（米）『精神、自我、社会』 1935 クローデル（仏）《火刑台上のジャンヌ・ダルク》 ジロドゥー（仏）《トロイ戦争は起こらない》 ケインズ（英）『雇用、利子および貨幣の一般理論』 1936 バヴェーゼ（伊）『働き疲れて』、ミッチェル（米）『風と共に去りぬ』、ベンヤミン（独）『複製技術時代の芸術』 サルトル（仏）『想像力』 1937 デレッダ（伊）『コージマ』 1938 サルトル（仏）『嘔吐』、サロート（仏）『トロピス』 バッケッリ（伊）『ポー川の水車小屋』（-1940） ホイジンガ（蘭）『ホモ・ルーデンス』 1939 ジョイス（愛）『フィネガンス・ウェイク』、スタインベック（米）『怒りの葡萄』、シュンペーター（墺/米）『景気循環論』（英語）	1930 真山青果《唐人お吉》、六世尾上菊五郎 日本俳優学校を開校、四ツ橋文楽座開場 1931 五所平之助【マダムと女房】（日本初の本格的トーキー映画）、長谷川伸《瞼の母》《一本刀土俵入》、 前進座結成 1932『新訂尋常小学唱歌』、小津安二郎【大人の見る繪本 生れてはみたけれど】、東京音楽学校に作曲科設置 1933 山本有三《女人哀詞》、大倉喜七郎が大和楽を創始 古典保存会設立、五所平之助【伊豆の踊子】、溝口健二【滝の白糸】、成瀬巳喜男【夜ごとの夢】 1934 島津保次郎【浅草の灯】、真船豊《鼬》 1935『新訂高等小学唱歌』、坪内逍遥没（1859-）、宇野信夫《芝談宵宮雨》、森本薫《華々しき一族》、成瀬巳喜男【妻よ薔薇のやうに】、衣笠貞之助【雪之丞変化 第一篇、第二篇】 1936 ＮＨＫラジオ番組「国民歌謡」放送開始、溝口健二【祇園の姉妹】、衣笠貞之助【雪之丞変化　第三篇】 川口松太郎《風流深川唄》、東京音楽学校に邦楽科設置 1937 歌曲が公募され《愛国行進曲》が当選、信時潔《海ゆかば》、文化勲章令制定、久保田万太郎ら文学座を結成 1938 川口松太郎《鶴八鶴次郎》、久保栄《火山灰地》 伊丹万作【巨人傳】、石井漠舞踊学校開校 1939 マキノ正博【鶯鳶歌合戦】、泉鏡花没（1873-）、岡本綺堂没（1872-）
1940	1940 対独降伏（仏）、参戦（伊）、日独伊三国同盟 1941 日ソ中立条約、独ソ戦勃発、ヴィシー政権（仏）、大西洋憲章、アジア太平洋戦争勃発 1942 連合国共同宣言調印、独ヴァンゼー会議、ミッドウェー海戦、ソロモン海戦、スターリングラード攻防 1943 カサブランカ会議、イタリア無条件降伏 カイロ宣言（米・英・蒋介石）、テヘラン会議（米英ソ） 1944 ノルマンディー上陸、東部戦線全滅 パリ解放、英軍爆撃で独・旧フィル・ハーモニー焼失、マリアナ海戦、サイパン玉砕、レイテ沖海戦、神風特攻隊 1945 硫黄島全滅、ヤルタ会議（米英ソ）、ドイツ無条件降伏、ベルリン・フィル戦後初公演（5/26）、原爆投下、対日宣戦布告（ソ） 日本無条件降伏、第二次世界大戦終結 国際連合成立 1946 チャーチル「鉄のカーテン」演説、イタリア王政廃止・共和国宣言、インドシナ戦争（-'54） 1947 トルーマン・ドクトリン（米）、インド独立 1948 大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国 世界人権宣言、イスラエル独立宣言、第一次中東戦争、ベルリン封鎖 1949中華人民共和国成立、NATO発足、東西ドイツ成立、ヨーロッパ審議会	1940 メシアン（仏）《世の終わりのための四重奏曲》 1941 ダッラピッコラ（伊）《囚われ人の歌》、ヒナステラ（亜）バレエ音楽《エスタンシア》 1942 ハチャトゥリアン（露/ソ）バレエ音楽《ガイーヌ》、プロコフィエフ（露/ソ）歌劇《戦争と平和》 1943 バルトーク（洪/米）《管弦楽のための協奏曲》、ラフマニノフ（露／米）没（1873-） 1944 コープランド（米）バレエ音楽《アパラチアの春》、プーランク（仏）歌劇《ティレジアスの乳房》（1947初演）、マルタン（瑞西）オラトリオ《地には平和を》 1945 ブリテン（英）歌劇《ピーター＝グライムズ》、ウェーベルン（墺）没（1883-）、バルトーク（洪/米）没（1881-） 1946 カーター（米）ピアノソナタ、マリピエーロ（伊）交響曲第4番《イン・メモリアム》 1947 ジョリヴェ（仏）交響的断章《プシュケ》、デッサウ（独）劇音楽《セチュアンの善人》 1948 シェフェール（仏）「ミュジック・コンクレート」創始、メシアン《トゥーランガリラ交響曲》 1949 マデルナ（伊）《コンポジツィオーネＩ》、R. シュトラウス（独）没（1864-）	1941 ゴーキー（アルメニア/米）《モハーヴェ》（-1942） ウェルズ（米）【市民ケーン】、フォード（米）【我が谷は緑なりき】 1942 ホッパー（米）《夜ふかしをする人々》、カルダー（米）《水平の針》、カーティス（米）【カサブランカ】、チャップリン（英）【黄金狂時代】 1943 カンディンスキー（露/独/仏）《円と四角716番》 ヘップワース（英）《ウェイブ》、クルーゾー（仏）【密告】、バウエル（英）＆プレスバーガー（英）【老兵は死なず】 1944 ワイルダー（米）【深夜の告白】、ミネリ（米）【若草の頃】 1945 ベーコン（英）《ある磔刑下の人物のための三つの習作》を展示、シャガール（露/ソ/仏）バレエ《火の鳥》の舞台装置と衣装をデザイン 1946 ピカソ（西）《ティレジアスの乳房》の挿絵６枚 リーン（英）【大いなる遺産】、コクトー（仏）【美女と野獣】、フォード（米）【荒野の決闘】、キャプラ（米）【素晴らしき哉、人生！】 1947 ル・コルビュジエ（瑞西）マルセイユの「ユニテ・ダビタション」建築（-1952年）、バウエル（英）＆プレスバーガー（洪/英）【黒水仙】、ハンド（米）【白雪姫】 1948 ポロック（米）《コンポジション第1番》、ワイエス（米）《クリスティーナの世界》、クルーゾー（仏）【情婦マノン】、デシーカ（伊）【自転車泥棒】 ロッセリーニ（伊）【ドイツ零年】 1949 サザーランド（英）《サマセット・モームの肖像》 リード（英）【第三の男】	1940 ヘミングウェイ(米)『誰がために鐘は鳴る』、サルトル(仏)『想像力の問題』 ※40-50年代イタリアで「ネオレアリズモ」 ※40-60年代フランスで「実存主義」 1941 ※（仏）『深夜叢書』活動開始 1942 カミュ（仏）『異邦人』、シュンペーター（墺洪/米）『資本主義・社会主義・民主主義』（英語版）、ユング（瑞西）＆ケレーニイ（墺洪）『神話学入門』 1943 ヘッセ（独）『ガラス玉遊戯』（ノーベル文学賞受賞） サルトル（仏）『存在と無』、サン＝テグジュペリ（仏）『星の王子様』（英語版） 1944 ノイマン（墺洪/米）＆ モルゲンシュテルン（独/墺/米）『ゲームの理論と経済行動』 1945 サン＝テグジュペリ（仏）『星の王子様』（仏語版） リンドグレーン（瑞典）『長靴下のピッピ』、サルトル（仏）『自由への道（I, II）』（III, IVは1949） 1946 サルトル（仏）『実存主義とは何か』、ベネディクト（米）『菊と刀』 1947 Th.マン（独）『ファウスト博士』 1948 クルチウス（独）『ヨーロッパ文学とラテン中世』、アドルノ（独）『新音楽の哲学』、カイヨワ（仏）『文学の思い上がり』、サルトル（仏）『文学とは何か』、ウィナー（米）『サイバネティックス：動物と機械における制御と通信』 1949 オーウェル（英）『1984年』、ボーヴォワール（仏）『第二の性』、レヴィ＝ストロース（仏）『親族の基本構造』 ブローデル（仏）『地中海』、エリアーデ（ルーマニア）『宗教学概論』（仏語）、『永遠回帰の神話 - 祖型と反復』（仏語）	1940 山田耕筰《夜明け》、長田秀雄《大仏開眼》、三好十郎《浮標》 1941 小学校を国民学校と改称、『ウタノホン』『うたのほん』、真山青果《元禄忠臣蔵》（-1943）、岡野貞一没（1878-） 1942『初等科音楽』、中能島欣一《三つの断章》 1943 谷崎潤一郎『細雪』（-1948）、黒澤明【姿三四郎】 1944 森本薫《怒濤》、俳優座結成 1945 森本薫《女の一生》、佐々木康【そよかぜ】の主題歌《リンゴの唄》流行、ＧＨＱにより古典歌舞伎の一部演目が上演禁止に 1946 三浦環没（1884-）、川上貞奴没（1871-）、第一次東京バレエ団《白鳥の湖》を上演、加藤道夫《なよたけ》芸術祭始まる、森本薫没（1912-） 1947 高野辰之没（1876-）、ＮＨＫラジオ番組「現代邦楽の時間」放送開始、新学制による小学校・中学校発足 義務教育9年間に 1948 太宰治没（1909-）、真山青果没（1878-）、菊池寛没（1888-）、新制高等学校発足 1949 武蔵野音楽大学発足、中田喜直《夏の思い出》、六世尾上菊五郎没（1885-）、木下順二《夕鶴》、小津安二郎【晩春】、橋本國彦没（1904-）、東京藝術大学に邦楽科設置

国名省略　イギリス（英）、アイルランド（愛）、ドイツ（独）、オーストリア（墺）、フランス（仏）、イタリア（伊）、アメリカ（米）、ロシア（露）、ソ連（ソ）、ハンガリー（洪）、ベルギー（白）、オランダ（蘭）、デンマーク（丁）、スペイン（西）、スイス（瑞西）、スウェーデン（瑞典）、カナダ（加）、チェコ（捷）、ポーランド（波）

括弧使用　『出版物』、《音楽・美術・演劇・舞踏》、【映画】

凡例は「共通項目」を参照して下さい。（許可なしに転載、複製を禁じます。）